



# なごみ

## シリーズ「看取りについて考える」⑤～訪問診療医の取り組み

くまさんクリニック 院長 熊谷 明史 (賛助会員)

白石区北郷で在宅診療をしている、くまさんクリニック院長の熊谷です。

私が北郷で開業したのは、以前から認知症対応型グループホームを経営し、グループホームでの看取りに先進的に取り組んでいた社長さんとのご縁がきっかけでした。

たくさんの認知症患者さんを担当させていただき、認知症の人からとても多くのことを学ばせていただきました。

診察室ではなく、グループホームという生活の場で患者さんを診察できたことが、その後の訪問診療の場でとても役に立っています。

30年余の病院勤務では、日常的に患者さんの死に立ち会ってきましたが、在宅医療を始めて10年間では約260名の患者さんを看取らせていただきました。

先ほどのグループホームでは60数名の方を看取っています。

当院は、老衰、認知症の患者さんの看取りが多く、約200名いらっしゃいました。

コロナ禍の期間は、入院すると面会が極端に制限されたため、多くのご家族が最期までご本人と共に過ごしたいというお気持ちになり、在宅での看取りが増えました。

当院では最期の時が近いと判断した場合、ご家族やご本人、ケアスタッフ(ケアラー、訪問看護師、ケアマネなど)に集まっていただき、病態を説明し、どのように最期を迎えるかについて話し合いをします。

認知症があってもご本人の気持ちを確認できる場合もあるので、普段の会話中でもそのような気持ちの表出に心を留めて診療するようにしています。

ご家族の中には、はじめは最期まで家で見ていきたいと思っけていても、ケアに疲れたりご本人の苦しげな状態を見るのが辛くなったりして入院を希望される方もいます。話し合いは、一度きりで終わらない事もあります。

最後まで家で見ていくということになれば、ご本人が苦しまないような緩和ケアに徹します。水分や食べ物を受け付けなくなったら、点滴などはできるだけしないで、いのちを終える時がくるまで、ご家族、訪問看護師や施設のスタッフと一緒に最善のケアを尽くします。

こうしてご本人は苦しまずに旅立つことが出来ると思います。ご家族も悔いのないケアが出来たと心から思えるのではないのでしょうか。





# 介護体験 超高齢両親を在宅で看取る ～母の死から想う～

N. I (豊平区)

## ＊介護のはじめ

母のうつ病は、右手首骨折して3か月で退院、その後しばらくして始まりました。その約一年後、私が50歳の時母の希望により、大阪の家族と話し合い、私は大阪から札幌に単身移住しました。

待っていたのは、気弱になった母と薬の副作用と思われる認知症の様な症状が出始め怒りっぽくなった父の姿でした。母の精神的な支えとなりつつ、父の繰り返す誤嚥性肺炎、腹部大動脈瘤のステントグラフト手術など次々と変化が起き、あっという間に10年が過ぎました。この間、大阪の家族にも結婚や出産で往復の日々となり、神戸での結婚式にも出席できました。

母とは故郷の留萌や函館への旅、趣味サークルや日々の散歩への同行など80代後半まで続けました。しかし、コロナ発生、拡大の影響もあり、家に引きこもる両親の心身の変化、QOLの低下は驚く程でした。母は自分から喋らなくなり、問いには頷く程度となりました。そんな中でも戦時中軍司令部で働いた事、戦後の混乱期三越で配給の仕事から煙草や食料品を扱うようになり、今の三越の形になったこと等、水を得た魚の様に話す母の姿に、人間の生命の強さを感じました。

## ＊本格的な介護がはじまる

母が95歳、2022年11月に転倒して鎖骨骨折し、手を捻ったことで右手を動かさない、狭心症発作、脳虚血による意識消失(一時的)や腹痛等、次々と体調の変化が現れました。父は在宅酸素導入、腰椎圧迫骨折でほぼ寝たきり状態になり、在宅サービスの開始となりました。

翌年7月、母は他院で大腸癌と診断され絶食の指示が出され、食欲はかなり低下し体重も落ちましたが食事をするのが日常であり訪問医に相談し、便のコントロールをしながら流動食的なものという事で許可をもらい、ラコール、プリン、茶碗蒸し、ヨーグルト、リンゴのコンポートなど少量ずつの摂取が数か月続けました。

12月には体重が25kgを切り、居間のソファでテレビを見てウトウトする習慣が続き、手引き歩行から移動はすべて車いすとなりました。

## ＊大腿部頸部骨折から

しばらくして、母は寝室からリビングに出たところで転倒、大腿部骨折、訪問医に連絡して救急搬送となりました。整形外科の医師より「手術をします。貧血が酷いので輸血も必要」と説明され、すでに「看取り期の最終段階であり、痛みを少しでも和らげて貰えたら自宅に連れて帰りたい」と言う私に医師は手術を勧め、押し問答となりました。

私は手術が終わる前に命が尽きてしまいそうで怖かったし、手術は本人の意向ではありませんでした。「病院としてこのまま返すわけには行かない、最低1日1本の点滴で様子をみる」ことを条件に入院しました。病院では完全に覚醒していなければ飲食させられないと。天井を見るだけの生活。閉眼するしかない母に、起きているだろうかと不安になりながら声掛けをしました。病院では「寝ていることが多く、食事以外の時間も人手がなくヨーグルトであろうと食べさせられない」とのこと。そこで面会時間の他に食事時間の面会も許可を得ました。父の介護をし、母の面会2回は厳しいものでした。急変の知らせが来たこともありましたが、入院11日目ですぐにか退院となりました。

## ＊父と共に看取る

家ではベッドを借り、エアマットの依頼など生活環境を整え、退院時の介護タクシー予約、退院後の訪問医・訪問看護の依頼などの準備を進め、退院にこぎつけました。自宅に帰った母は安心した表情でヨーグルトを2個食べ一緒にテレビを見て過ごし、年明けを迎えました。骨折した母を動かすのは大変でしたが、訪問看護やヘルパーの手を借り行うことができました。

点滴で浮腫んだ足の腫れがすっかり消失し、血圧や脈も測定できない程弱った母の手足をさすりながら退院後17日目の朝方意識消失、97歳の生涯を閉じました。父に手を握ってもらい、最後の息まで共に見送ることができました。

数日声を出して泣いていた父は、ある日母と暮らした72年間の記憶を失くしていました。母の若いころの写真を見てこんな綺麗な人と10日でも暮らしてみたかったと…。(続く)



## 『2月のつどい』は東区で開催しました



2月の「つどい」は2月20日(木)東区民センターで20名の参加をいただき開催しました。

「ちょこっと学習会」は、東徳洲会病院看護師長の石塚様より、「感染予防のコツ」について説明いただきました。コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス性胃腸炎が、この冬猛威を振るいました。感染経路は、飛沫、接触、エアロゾル(飛沫感染の一種)の3つ。主な対策は、ワクチン接種、早めの受診、咳エチケット、環境表面消毒、流行状況の確認などです。インフルエンザは合併症の肺炎に注意。また、表面にウイルスが付きやすい携帯電話は取り扱いに注意が必要とのお話でした。

その後のいつもの語り合いでの皆さんの発言概要は、以下のとおりです。

### ❖80代要介護1の母を介護 娘

ひとり暮らしで日常生活は何とかできていますが、物取られ妄想が強く戸惑っています。泥棒が入ってきて引出しを開けたとか、お財布がないなど、対策で鍵を変えたりもしました。本人はストレスからか、最近施設に入れてほしいと言うこともあり、どうしたらよいのか悩んでいます。

### ❖会員から

物取られ妄想は、自分を守ろうとして悪いのは他人のせいにする事で、周りの人が理解しないと難しい症状です。施設に入っても続くこともあります。他の楽しみとか気分転換的な対応も必要かなと思います。

### ❖90代母と妻を介護 夫

母はグループホーム、妻は老健入所中です。自分が脳梗塞で半身不随のため、妻の面倒を見られなくなり施設に入れてしまい、辛い立場です。多数の病院通い要支援1ですが、介護サービスを受けないでがんばっています。

### ❖要介護2の妻を介護 夫

妻は数年前に認知症を発症、昨年より精神病院に入院中です。被害妄想、徘徊、心の変動が大きく、私が耐えられず入院させました。入院後、薬の影響か何もできなくなり車椅子です。切なく罪悪感を持っています。自分も介護保険を受けるように先生から言われていますが、悩みながら自分で食事を作っています。

### ❖会員から

男性は介護で頑張り過ぎてしまう傾向があります。

今は休む時期と捉えて、今後のことを考えてはどうでしょうか。それは、介護を受ける人のためにもなります。一人で抱え込まず、介護サービスを使うことも考えたらいいかと思います。

### ❖会員から

男性は自分を責めたり罪悪感を持ったりすることが多いですが、そんなことする必要ありません。一生懸命家族が介護した結果、皆に助けってもらうことも必要です。共に生きていかなきゃならないのだから。辛さは人それぞれ違うし、比べてもダメなんだけれど、家族の会の経験を持った人と話をすることが参考になると思います。

### ❖会員から

奥様の病院があっていないこともあり得ます。私の経験から、ちゃんと認知症を見てくれるところを見つける、もっといい方法があると前を向いて探してみることも必要ではないでしょうか。

### ❖要介護1実母と3の義理の母を介護 娘

母は2年前から認知症で、器用な人でしたが、何もしなくなりました。過去、物取られ妄想もありましたが、今はデイサービスに通っています。最近困っているのは、毎日大量のお米を研ぎ続けていることです。義母は認知症ではないですが、施設入居後も自由を求めてずっと愚痴を言っています。自分の生活もあり大変です。

### ❖会員から

デイサービスやグループホームでは、役割を決めて、できることをやってもらうよう対応しているところもあります。お母様のお米研ぎの問題を一度相談してみてもいいかがでしょうか。

## 3月のつどいご案内

【とき】 2025年3月21日(金) 13:30~15:30

【ところ】 清田区役所 3階 中会議室(清田区平岡1条1丁目2-1)

【最寄り駅】 中央バス「清田区役所」下車 徒歩1分

【問い合わせ】 家族の会事務局 ☎281-2969(火・水)

※4月の「つどい」はかでの2.7で4月24日(木)に開催予定です。

ちょこっと学習会テーマは「日常生活自立支援事業」の予定です。





## 事務局だより



春なお浅く、朝夕はまだまだ冷え込むこの頃ですが、皆さま体調など崩されてはいませんか。3月は年度の変わり目でもあり、変化の多い月かと思えます。どうぞご自愛ください。春風によって、皆さまの周りにたくさんの幸せが訪れますように。

総2025年度総会は4月24日(木) 13:00から開催

総会のご案内を同封します。総会終了後、引き続き「4月のつどい」を開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。



総入会会員 どうぞよろしく。EKさん(東区)

総ご厚志をありがとうございました 2月 122,400円・切手  
MAさん、HMさん、NOさん、YIさん、匿名1名

### ❖ 3月・4月のミニサロンのお知らせ ❖

❖とき：3月12日(水)・4月9日(水) 午後1:00~3:00

❖ところ：かでの2・7 2階 ボランティアルーム

ミニサロン以外の日でも、皆さんの来訪をお待ちしています。  
介護を終えたB会員さんの参加もお待ちしています。



総公益社団法人「認知症の人と家族の会」(通称:全国の会)入会のおすすめ

4月から札幌家族の会を通して「全国の会」に入会しませんか？

毎月会報「ぽ～れぽ～れ」が届き、認知症に関する全国の様々な動きを知ることが出来ます。詳しくは事務局281-2969までご連絡ください。(年会費 5,000円)

総2月の活動日誌

4日-会報「なごみ」発行・編集会議・札幌市介護保険事業計画推進委員会(大野)、5日-会報発送・事務局会議、11日-イオン黄色いレシートキャンペーン協力(大内・鈴木)、12日-役員会・ミニサロン、13日-第1回北海道ボランティア・市民活動センター運営委員会(大内)、15日-札幌市・市社協主催「介護予防」と「支え合い」イベント(4名参加)、18日-上富良野社協主催「認知症カフェ」(大野)・札幌市歯科口腔保健推進委員会(大野)、19日-西区第2地域包括認知症サポーターフォローアップ講座(下村)、20日-つどい(東区)、26日-手稲区ケア友の会(中嶋協力)、27日-札幌市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員会(大野)

### 井戸端サロン3月 ~仲間からの心にとまる話をご紹介します~

#### 世話人として歩んできた25年を振り返って

私は27年前、認知症の方との関わりをきっかけに、認知症という病気を理解する必要性を感じ、札幌家族の会に入会しました。その後、2年間のボランティアを経て、世話人をつとめるようになりました。世話人を続けることに何度か行き詰ったこともありましたが、その当時の会長さんに『この会は手の5本の指のようにそれぞれの能力をあわせて成り立っている』と教えられ、色々な経験をさせてもらいました。私は田舎でひとり暮らしをしていた実母を90歳まで遠距離介護をしましたが、実の母であるがゆえに、優しい言葉をかけることが出来ず、帰宅する車中で後悔することも多々ありました。そんな時、どんなことも受け入れて聞いてくれたこの会の仲間に救われました。

私はこの11年ほど会報係を担ってきました。原稿を書いてくれる方を見つけるのに苦労しましたが、みんなで楽しくやって来ることが出来ました。今では、会報はパソコンでの作成となり、カラー印刷による仕上げも出来るようになりました。時代の流れと変化、そして、自身の老いも感慨深く思っているこの頃です。今年で世話人を退任させていただきますが、これからは会員として無理をせず出来ることをお手伝いしていきたいと思っています。ありがとうございました。 N. O

